

経営比較分析表（令和元年度決算）

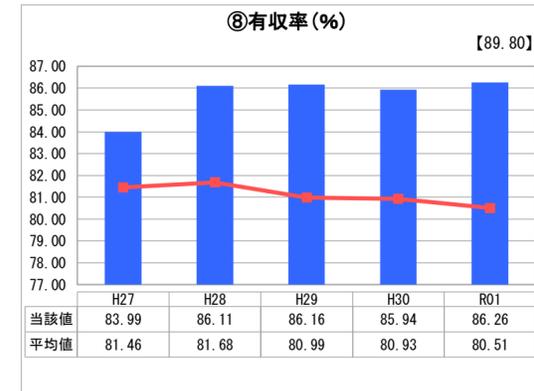
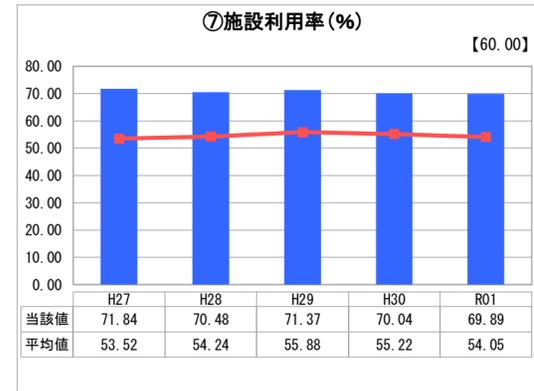
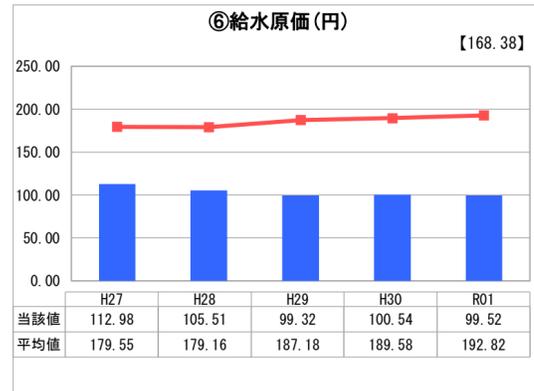
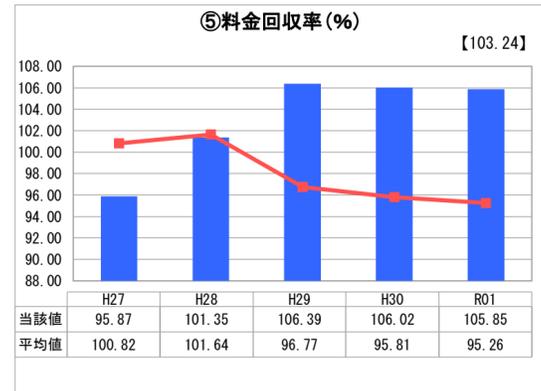
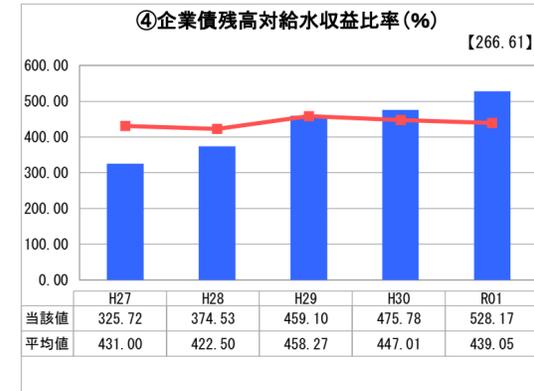
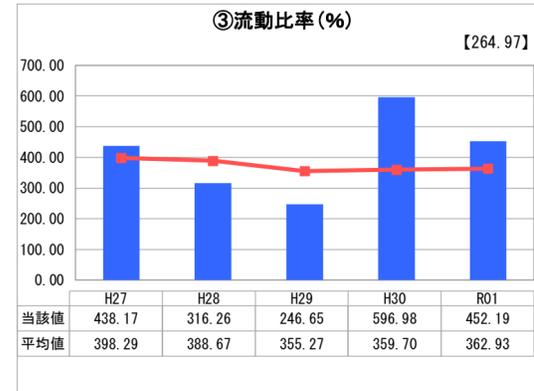
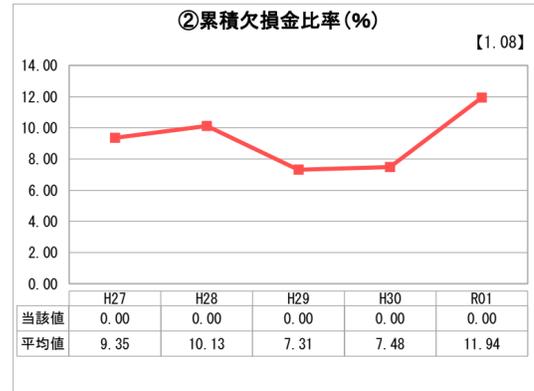
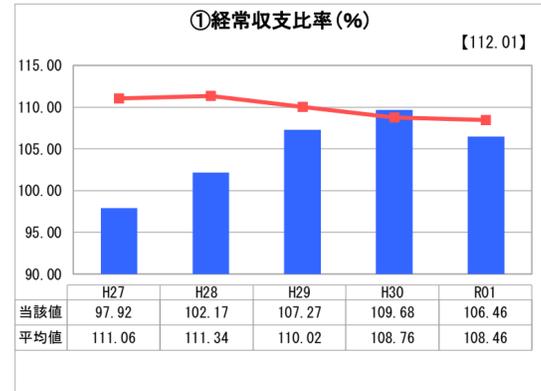
兵庫県 市川町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	65.86	99.79	2,910	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
11,947	82.67	144.51
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
11,850	143.05	82.84

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
□	令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

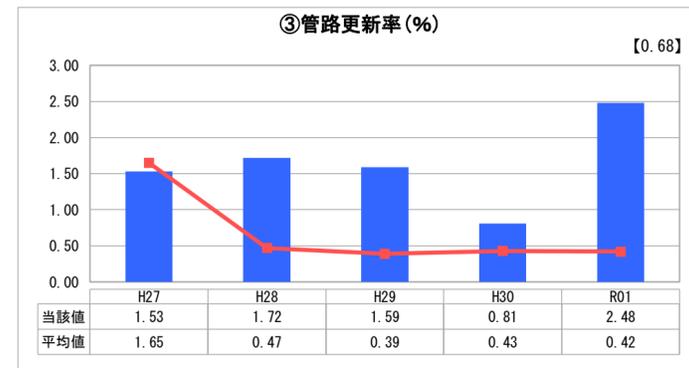
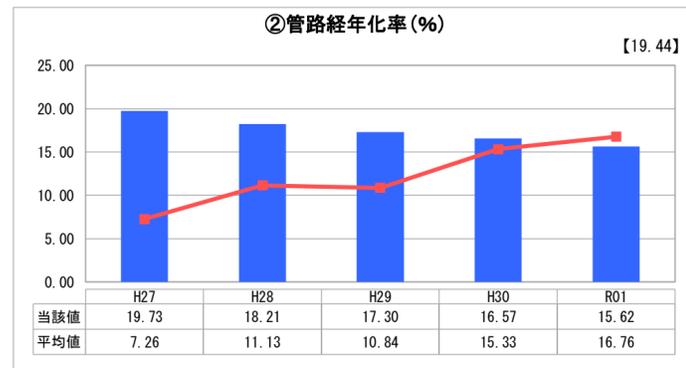
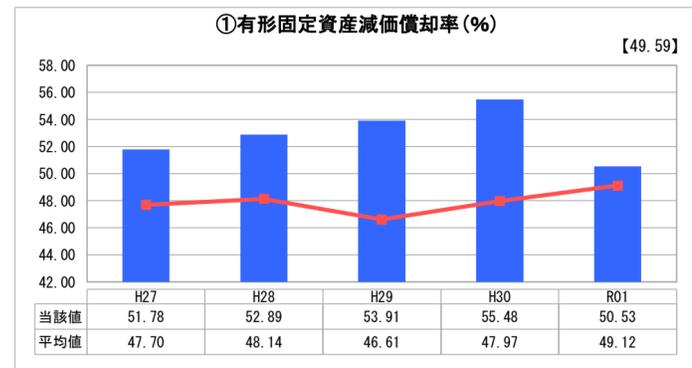
1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率…100%以上となっているものの平均値を下回っているため、経営改善に向けた取り組みが必要である。② 累積欠損比率…令和元年度までは発生していない。③ 流動比率…平成30年度から令和元年度の減少は有形固定資産の取得が大きく増えたため。④ 企業債残高対給水収益比率…企業債残高に対して給水収益の占める割合が低いことから、料金水準が適正であるか検討しなければならない。また、企業債への依存が高い状況のため資金管理に注意していかないとけない。⑤ 28年度より上がっており、このまま維持できるよう努力しなければならない。⑥ 給水原価…平均値を下回っておりこれまで経費節減に努めてきた結果、効率的な運営をしてきたことがわかるが、今後、資金管理に注意しながら企業債を活用し、更新を行いながら更なる経営改善が必要である。⑦ 施設利用率…平均値を上回っており、施設の利用状況や規模は適正である。⑧ 有収率…用水は有収率が100%であるが、町内の上水は老朽管が多く、有収率が72.2%と低いため漏水等の対策をする必要がある。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率…平均値よりも高く、老朽化した資産が増加していることから計画的に更新を図っていく必要がある。② 管路経年化率③ 管路更新率…類似団体以上に管路更新を行ってはいるが、管路経年化率が高いためまだまだ計画的に更新を行っていかなければならない。

2. 老朽化の状況



全体総括

経費節減に努めてはいるが、経営状態は前年に比べて悪化してしまっている。水道管は老朽管がかなり残っており、漏水対策もあり管路更新を計画的に早急に企業債等を活用しながら行っていかなければならない。併せて料金改定も行き、経営していく必要がある。